



# 子ども環境フォーラム 2018



2018年11月3日(土)  
於：川口市立鳩ヶ谷小学校  
主催：認定NPO法人川口市民環境会議  
後援：川口市教育委員会  
協力：川口市立鳩ヶ谷小学校



この事業は公益財団法人サイサン環境保全基金の助成を受けて実施しました。

# プログラム

10:00~10:10 開会 あいさつ

\*敬称略



認定 NPO 法人川口市民環境会議 代表理事  
川口市教育員会 学校教育部指導課  
川口市立鳩ヶ谷小学校 校長

浅羽 理恵  
川島 慎也  
清水 健治

10:10~11:40 環境活動発表

- 1 鳩ヶ谷小学校環境委員会
- 2 安行小こどもエコクラブ
- 3 自然っ子クラブ
- 4 戸塚南小あぱるエコクラブ
- 5 在家小エコクラブ



12:40~14:40 ワークショップ体験

- ① 校内の植物の不思議
- ② 「昔の暮らし」を探ってみよう
- ③ 学校の植物で布を染めよう
- ④ 「鳩ヶ谷の地形」から環境を知ろう
- ⑤ 「エネルギーって」何？
- ⑥ エコなクッキング
- ⑦ ペットボトルでけん玉を作って遊ぼう
- ⑧ 段ボールコンポストを作ろう
- ⑨ 自然の材料で工作

- 講師 西川 昭三  
講師 向井 剛生  
講師 神山 裕則  
講師 江口 勝康  
講師 萩原 利夫  
講師 牧野真知子  
講師 四條 延子  
講師 守谷 裕之  
講師 井原 勲

14:40~15:00 ワークショップの報告・閉会あいさつ



## 1. 鳩ヶ谷小学校環境委員会



鳩ヶ谷小学校の取組みと、環境委員会の主な活動の2つを  
発表します。鳩ヶ谷小学校は、今年で146周年をむかえる  
川口市で1番古い伝統のある学校です。各学年4クラス、824人が  
鳩ヶ谷小学校に通っています。



鳩ヶ谷小学校は、3つの「ともに」を大切にしています。

- 1つめは「〇〇とともに」
- 2つめは「ともに〇〇〇」
- 3つめは「〇〇とともに」です。

〇にはどのような言葉が入るか考えながら  
発表を聞いてもらえればと思います。



鳩ヶ谷小学校は、伝統のある学校なので、  
昔から地域の方たちとの関わりも多く、今  
もいろいろな形で交流を続けています。



・生活科探検で、地域の方たちにインタビ  
ューをしたり、地域の幼稚園生や高齢者  
の方と交流をしたりしています。

また、生活科探検での鳩ヶ谷の大発見を  
「大好きいっぱいわたしの町」としてまと  
めることで、多くの人々に鳩ヶ谷のよさを  
知ってもらえるようにしています。



・生活科では、鳩ヶ谷について詳しく勉強し  
ますが、3年生からは社会科が始まります。

・社会科では、暮らしの中で起こる災害に  
ついての勉強をし、鳩ヶ谷も含めた川口市  
で、災害からみんなを守るための安全対策  
の案をまとめ、市役所の人に提案をする  
という学習を4年生でやっています。



・総合的な学習では、車いす体験などを通  
して、障がいのある方がふだんのように  
生活をしているのかについて知ることで、  
ともに生きていくためにはどうしたらよ  
いのかを考えています。

その際、鳩ヶ谷のまちで地域とともに、  
ともに生きていくための注意すべき場所と、  
その改善策について地図に書きこみ、鳩ヶ  
谷駅に掲示することで、多くの人に見て  
もらうことができました。



また、福祉活動のための募金活動を行っ  
ています。

・鳩ヶ谷小では各学年で朝の時間を使い、地域清掃も積極的にしています。

「いつもきれいにしてくれてありがとう」と地域の方から声をかけてもらえることもあり、とてもうれしいです。

わたしたちのまち、鳩ヶ谷をきれいにするため、みんな一生懸命取り組んでいます。

また、鳩ヶ谷小の6年生と鳩ヶ谷中学校の3年生と協力して、卒業前に感謝の気持ちを込めて地域の清掃もしています。

鳩ヶ谷小の自然を生かし、ネイチャーハントも行っています。

また、鳩ヶ谷小学校の校庭には大きな銀杏（いちょう）の木があります。台風が通過した次の日の朝などには、銀杏

（いちょう）の木から落ちた銀杏（ぎんなん）を児童みんなで拾います。

拾った銀杏（ぎんなん）を、PTAの方たちなどがきれいに洗ってくれて1年生がメッセージカードを書いて袋づめたものを10月26日に行った社会科の全国大会のときに、鳩ヶ谷小学校に来てくださったお客さんたちにプレゼントをしました。今日、鳩ヶ谷小学校に来てくださったみなさんにも1袋ずつプレゼントしたいと思います。おうちでめしあがって下さい。

・銀杏は食べるととてもおいしいですが、おいしいといえば給食です。

これはとうもろこしの皮をむいている写真です。

お手伝いした食べ物が、給食としてでるととてもうれしいし、いつもよりもおいしく感じます。また、毎日の給食にかかせない牛乳はパックをひらいてリサイクルに出しています。

・校内ではいたるところにこのような掲示があります。

「人がいないときには電気はつけっぱなしにしない」「水をむだづかいしないようにしよう」などです。むだづかいをへらすためにみんなで意識しています。

鳩ヶ谷小学校では、委員会活動でも地域の方たちの協力を得ながら活動しています。

・そんな中でも、私たち環境委員会の活動は大きく3つあります。1つめはこれです。

え？注射と環境委員会、どんな関係があるのだろう？と思った人も多いと思います。ヒントはこれです。



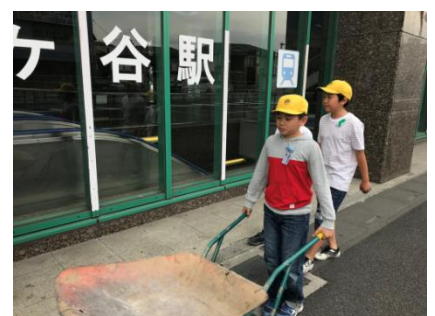
実は、ペットボトルのキャップを集めることで世界中の困っている人たちを助けるワクチンになるのです。ワクチンとは、病気にならないように体を守る薬のことです。

ということで、環境委員会の活動の一つ目は、ペットボトルキャップの回収です。

ではここで問題。ワクチン1つを世界の人たちに、いくつのペットボトルキャップが必要でしょうか。1、800個 2、1500個 3、3000個 …正解は800個です。

ここにいる鳩ヶ谷小の子は824人なので、全員が一つずつ持ってくるだけで一人の命が救えます。日本では1人あたり二日で一本のペットボトルの飲み物を飲んでいきます。

例えば、4人家族なら、二日で4つのペットボトルキャップがでることになります。そのペットボトルキャップで、たくさんの人にワクチンを打つことができ、命を救うことにつながります。



わたしたち環境委員会は、より多くの人の命を救うために、地域の方にも協力をしてもらい、鳩ヶ谷小学校の近くにある武南警察署や、セブンイレブンにも回収箱をおかせてもらい、ペットボトルキャップの回収をしています。

回収したペットボトルキャップはこのように洗って乾かし、袋につめています。校内では、職員室の前のみんながよく通るところに回収箱をおいています。



・環境委員会の活動2つめは古紙回収です。教室にあるかごの中に入っている紙を集めます。

集めた紙を、使える紙と使えない紙に分けます。古紙を再利用することで、ごみを減らすことができます。

古紙に出すことのできなかつたものは、校内でも積極的に裏紙として活用をしています。

・環境委員会の活動の3つ目は、環境整備です。

教室内の環境の整備の確認と、校内の花壇の整備もしています。鳩ヶ谷小学校のみんなが優しい気持ちをもって、相手を思いやり生活ができるように、地域の方に協力をしてもらい「人権の花」を植えました。南校舎の前の通路にプランターがありますので、お帰りの際にぜひ見てください。



鳩ヶ谷小学校は3つの「ともに」を大切にしますとはじめにお話ししましたが、分かりましたか。

1つめは「地域とともに」 2つめは「ともに生きる」 3つめは「自然とともに」でした。

これからも3つの「ともに」を大切に、環境を守り続けていきたいです。

## 2. 安行小こどもエコクラブ

安行小は、今年で学校ができてから145年目。川口でもいちばん古い学校です。校庭には、大きな木がたくさんあります。これはくすのきです。くすの木は、安行小学校のシンボルです。高さはなんと26m！校舎よりも高いです。安行小学校は、どこを見ても木や草花に囲まれた緑豊かな学校です。安行小の校庭にも、60種類を



こえる木があります。

安行小学校のすぐとなり「安行原自然の森」があります。自然の森は、昔の安行の自然がそのまま残っている、とても貴重な公園です。

自然の森は、高い台地の樹木林と低地の林と草原があります。そこにはわき水の水路もあります。また斜面林もあり、いろいろな植物、たくさんの生き物がくらしています。

エコクラブでは、学校や安行原自然の森を中心に、いろいろな活動を行っています。ついこの間、10月27日には「どんぐりごま選手権」を開きました。自然の森で、どんぐりをひろってどんぐりごまを作り、大会を開きます。

講師は環境アドバイザーの横山さんです。横山さんには、たくさん講師できていただいています。みんな横山さんのことを隊長とよんでいます。

今年でもう、第六回目になりました。まず、どんぐりを森でひろいます。この日にひろったどんぐりを回すのがルールです。

森にはクヌギ、コナラ、シラカシの3種類のどんぐりがあります。ハンドドリルであなをあけて、そこにつまようじをさします。子どもだけでなく、昔の子ども、大人もいっしょにやりました。

みんなもう真剣にコマをまわして、たたかいました。なかには、負けてくやしくて涙をながした子もいます。最後決勝戦、ぼくはお父さんとたたかいました。やったー！お父さんもぶって優勝しました！

10月1日 バッタ選手権。

毎年、自然の森でバッタ選手権も開いています。今年でこちらも第6回目となりました。

バッタ選手権は、横山さんがいろんな所で開いています。これまでの最高記録、クルマバッタモドキ、なんと46m50cmです。ちなみに安行大会の最高記録は24m93cmぼくの記録です！

さっそく、バッタをつかまえに自然の森に出かけました。台地林、上の公園には、あまりバッタがいません。どんぐりはたくさんとれたところです。斜面林を階段でおりていき、下の草地に行きました。

下にはカラスウリが赤くなっていました。

みなさん、知ってますか？カラスウリの種は、うちでのこづちのような形をしています。この種をおさいふに入れると、お金がたまるそうです！



この虫かごを見てください。まだ、運動会が終わったばかりの日でしたが、森は、もうすっかり秋に変わっています。草原においてバッタをさがしました。草原にはたくさんバッタがいます。バッタは草を食べるからです。

みんなそれぞれにバッタをつかまえて、いよいよバッタ選手権のスタート！トップバッターはコバネイナゴです。おしりを押してジャンプ、寒くて元気がないのか53cmでした。ぼくはクビキリギリスを飛ばしてみました。口が赤いので、血すいバッタとも言われています。

クビキリギリスは越冬します。冬をこすので、寒さに強いバッタです。優勝候補のバッタまちがいなしです！それ、ジャンプ！…しかし記録は4m25cmにとどまりました。

それでも、この日の優勝はやはりクビキリギリスでした。記録は11m20cmでした。

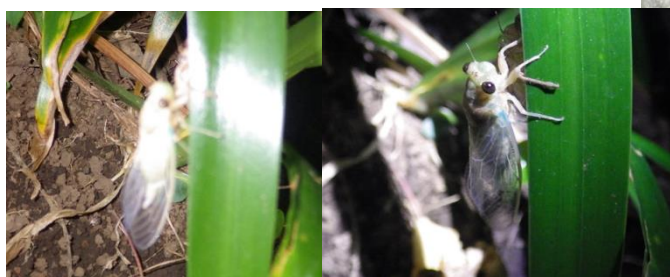
バッタがたくさんいる草地にはわき水の水路もあります。ここはわき水の水路です。

水路のしたをさぐると…いました、いました。トンボのヤゴです。しかもオニヤンマのヤゴです。オニヤンマのヤゴは水がきれいで、流れがあり、下が砂地のところに育ちます。自然の森には夏、貴重なオニヤンマが飛んでいます。

安行原自然の森は、ぼくたちの宝物です。

夏には、カブトムシやクワガタもつかまえることができます。学校にも飛んできます。この夏、校庭のカリンの木をゆらして、たくさんクワガタをつかまえました。

夜の観察会では、セミの羽化もみることができました。ツクツクホウシの幼虫です。セミの羽化はとてもきれいです。



夏になると、学校や森で一斉にセミが鳴き出します。アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクホウシ、ヒグラシなどいろんなセミがいます。

地球温暖化の影響で、クマゼミが、西の方から東の方にあがってきているそうです。安行でも、クマゼミの鳴き声が聞こえます。

今、安行のセミにたいへんなことがおきているのを知っていますか？中国からきた外来種のタケオオツクツクという大きなセミがあらわれました。これがタケオオツクツクです。幼虫を見てもわかるように、とて



アブラゼミ



ミンミンゼミ



ツクツクホウシ



タケオオツクツク



ヒグラシ

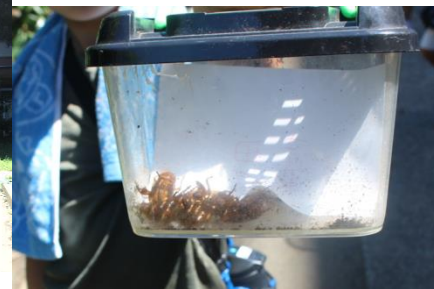
も大きなせみです。クマゼミよりも大きいんです。

幼虫は、竹の根の汁をすって大きくなります。だから竹林で育ちます。ツクツクハウシの仲間だそうです。タケオオツクツクが、これからどう増えていくのか心配です。鳴き声を聞くと、びっくりします。まるで電気のこぎりが回っているような大きな音です。

そこで、ぼくたちは、夏にセミのぬけがら調査を、学校と自然の森で行いました。セミのぬけがらを調べれば、学校や森にどんなセミがいるのかわかります。セミのぬけがらについて、横山さんの説明を聞きさっそく外に出て調べました。学校うら、学年園です。

アブラゼミらしきぬけがらが少しありました。

ここはミカンの木がある中庭です。ぬけがらがたくさんある木には目印をつけていきました。↓校門の近くです。ミンミンゼミです。↓



次は自然の森です。草地のアジサイ畑にはびっしりと、セミのぬけがらがありました。これが、ぼくたちがあつめたセミのぬけがらです。

ニイニゼミは、毛に土がついているのですぐわかります。

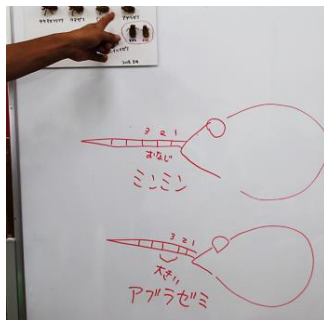
アブラゼミとミンミンゼミの区別が難しいです。触角の第3節目が大きいのがアブラゼミです。色は、アブラゼミの方がこくて、てりやきみたいなしょうゆ色をしていることが多いです。

セミのぬけがらを種類でわけて地図の上においてみました。左が学校で、右側が自然の森です。

調べてわかったことは、アブラゼミとミンミンゼミが多いということです。ツクツクハウシとニイニゼミもありました。

しかし、今回の調査では、クマゼミもタケオオツクツクも見つかりませんでした。少し、安心しました。

これはタケオオツクツクのぬけがらです。お父さんと出かけて、安行、赤山城址へ行って見つけてきました。行けばたくさん見つけることができます。タケオオツクツクが増えて、日本のアブラゼミやミンミンゼミなどはどうなっていくのか。タケオオツクツクに追いやられて、へってしまうのか。これからも、セミ調査を続けたいと思います。ぼくたちの大好きな、安行の自然、自然の森を楽しみながら守っていきましょう。





### 3. 自然っ子クラブ

活動場所は、川口の北の方です。川口自然公園の北にあります。

4月、草もちつきと、野草の天ぷらを食べます。



見沼茶・原子パン。5月、見沼のお茶づくりです。パンも炭火で焼いて食べました。



6月、田植えです。100人以上集まります。



8月、デイキャンプです。虫の標本や葉っぱの標本づくりです。スイカ割りもしました。



10月、イネかりです。どろんこになってがんばりました。



2月、見沼代用水のまわりのゴミ拾いをします。ホタルが少しでもたくさん出ることを願っています。



12月、収かく祭です。昔の人のお米を作る知恵を学びました。



自然観察会。イベントの午後からは、西川先生、吉野さんの自然観察会です。カードが毎回10枚もらえます。



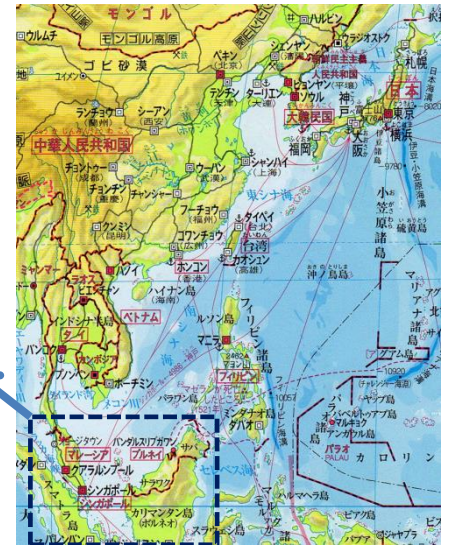
探鳥会。1月、冬鳥の観察です。芝川第一調整池にハクチョウやカモを見に行きます。



ボルネオ親子スタディツアー。今年一番力を入れているのが、「ボルネオの生き物を救おう」の取り組みです。日本から飛行機で5時間半の島です。

3つの国（マレーシア、インドネシア、ブルネイ）からできています。ボルネオにはとてもすてきな生き物がたくさんいます。クリアス川リバークルーズ。

川で生き物さがし。



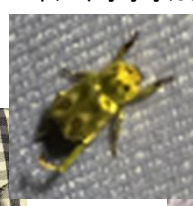
川をボートで行きます。右がテングザル、上が1mくらいのみずトカゲがいました。夜には、1本の木の下にホテルが何百匹もいて美しかったです。

次の日は、山の上の方で白い布にライトを当てて、ライトトラップをしました。大きな三本ヅノのボルネオオオカブトも10匹くらい飛んできました。



ボルネオオオカブト

木の葉のようなガや黄金のコガネムシ、大きなツヤクワガタも飛んできました。



右のゾウの写真には、悲しいことがありました。16頭のゾウが毒で殺されました。小ゾウのジョーは、おっぱいを飲んでいたので助かりました。お母さんが死んでいたのがわからず、目を鼻でこすって開けようとしています。ジャングルを畑に変えたため、人とゾウがぶつかってしまったのです。

**Increasing the conflict between Human and Elephants**  
人とボルネオゾウとの衝突が激増している。



↑2013年 アブラヤシ農園の近くで14頭のゾウの群れが毒殺された。母乳を飲んでいたので助かった生後数ヶ月の赤ちゃんゾウが母親の目を何度もさすり起こそうとしていた。



オランウータンもジャングルがすくなくなつて絶滅危惧種になっています。ジャングルに畑ができて道ができると、もう動けるところが少ないです。木から降りて歩くことをしないので、そのまわりで生きるしかなく、子供を残せないのです。

マレーシア政府は、川から50mはパームヤシを植えないように言っています。

しかし、なかなか守られていません。

左の上の方までパームヤシ畑です。川のそばに少しだけジャングルが残っています。多くの生き物の住み場所が少なくなっています。



この食品、ポテトチップス、チョコレート、ドーナツ、揚げ物、ラーメンそしてジャンプー、せっけんなどにパームヤシ油が入っています。

家の中の食べものなどを調べてみました。パームヤシ油とかいてあるものはありませんでした。植物油と書かれています。パーム油は、日本人一人が、年間5kgも食べています。



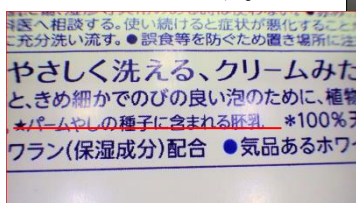
家の中の食べもの



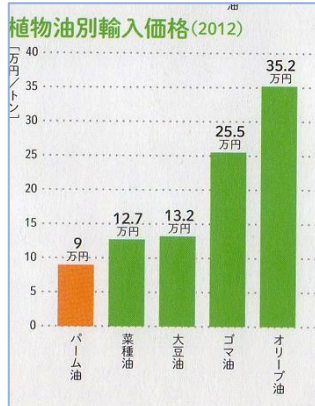
パームヤシ

パームヤシ油は、オレンジのところが食用油、白いところが洗剤などに使われています。

↓せっけんには、「パームやし種子に含まれる胚乳」と書かれています。

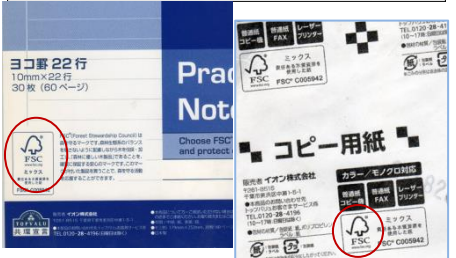


植物油は、なたね油や大豆油、ゴマ油、オリーブ油などがあります。一番安くいい油はパーム油です。

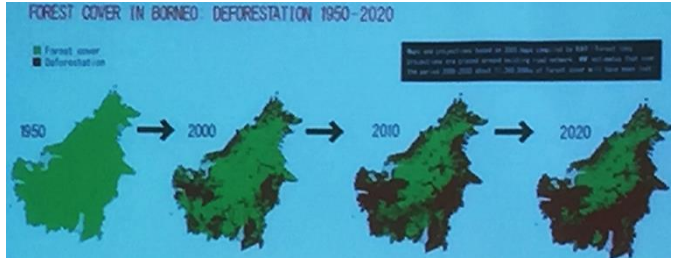


環境のことを考えてパーム油を使いましょう。そして、いま、木からできる紙製品もボルネオ輸入されています。

FSCマークの環境にやさしいものを使いましょう。



ボルネオは、1950年ころは、緑の島でした。年々、木を切って日本に輸出し、そこをパームヤシ畑にして、緑のジャングルをへらしてきました。今は、半分近くになっています。



これは、ボルネオの北のサバ州の川キナバタンガン川です。書かれている数字は、オランウータンの生きている数です。オランウータンは、木から降りません。そうするとほかの所のオスとメスが出会えませんからすぐに死んでしまいます。



そこで、川沿いに土地を買って、みどりの回廊を作ろうとしています。いま、私たちは募金を集めて「ジプシーさんの森を作ろう」と呼びかけています。

ジプシーさんは、3歳のときボルネオから日本の多摩動物園につれてこられました。人の話がわかりオランウータンが仲良く暮らせるようになってきたおばあちゃんでした。日本のボルネオオランウータン43頭の内16頭がジプシーさんの血筋です。



2017年9月27日(水)、多摩動物公園のボルネオオランウータンのメス「ジプシー」が死亡しました。ジプシーは1955年以降生まれと推定される、野生由来の62歳(推定)。1958年7月19日にボルネオから来園し、多摩動物公園で長期にわたって飼育されてきました。また、ボルネオオランウータンとしては世界最高齢でした。多摩動物公園IPより

#### 4. 戸塚南小あすばるエコクラブ

わたしたちは戸塚南小あすばるエコクラブです。戸塚南小あすばるエコクラブは、戸塚南小学校の環境活動から始まったエコクラブです。今は、戸塚児童センターあすばるとも協力して地域で活動しています。



わたしたちは一年間を通して学校南側にある戸塚下台公園の斜面林を中心に活動しています。

○今年3月11日、この斜面林でアカガエル調査を行いました。講師は環境アドバイザーの横山さんです。横山さんには、戸塚南小開校からずっと協力をしていただいています。

これが2010年からのアカガエルの産卵の数です。県の準絶滅危惧種のアカガエルを、卵からオタマジャクシに育て、放流して増やしてきました。

年々増えているのがわかります。

去年は卵が206個も見つかりました。今年は何個になったと思いますか？

わたしたちと一緒に調査に行きましょう。

ここは学校のビオトープです。細かくさがしましたが、今年もアカガエルの卵は見つかりませんでした。



斜面林の水路です。今は、水が流れていますが、ある時期、水がかれていました。

エコクラブで井戸を掘って、市にお願いして、電動ポンプを設置してもらいました。

そして、水がよみがえりアカガエルもたくさん育つようになりました。この看板をみてください。エコクラブでアカガエルを守るためにつくりました。水路ぞいに歩いていくと、ありました、ありました。アカガエルの卵です。ヒキガエルの卵は、ソーセージみたいに長細いですが、アカガエルは丸くかたまりになっています。

橋の下をのぞくと、雨でながされた卵がいくつもありました。

卵の個数を記録していきましょう。

アカガエルも出てきました。これがアカガエルです。産卵が近づくと、おなかが赤くなります。それでアカガエルというんだそうです。

アカガエルの卵のかたまりは、たくさんの卵の集まりです。いったい何個あると思いますか？小分けして、みんなで数えてみました。すると、なんと… 2868個もありました。すごい数ですね。でも、そのうち、最後まで大人になれるのは何匹もいません。

ところで、今年は卵のかたまりは何個あったと思います？去年は206個。今年は何個しかありませんでした。どうして、こんなにへったのかみんなで話し合いました。まわりの環境が悪くなって、育ちにくくなっている、アカガエルが他の生き物に食べられている？

話合いの中では、アライグマが戸塚の林に入るといった話が出てきました。住んでいる人たちも、メダカを食べられたり被害にあっています。

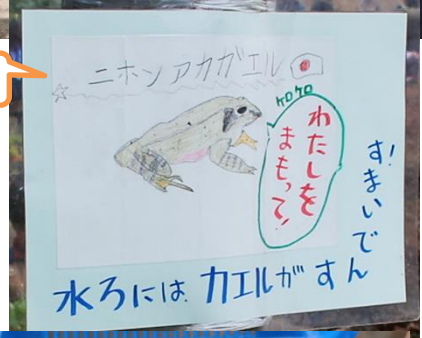
ひょっとしたら、アライグマが犯人かも知れません。これから、アライグマ調査もしていこうと思います。そして、アカガエルの数を守るために池にネットをはってオタマジャクシが大人になるまで保護しました。

○エコクラブでは、この斜面林で年間4回の竹林間伐を行っています。PTA とエコクラブで行っています。

4月にはタケノコ掘りをします。タケノコ掘りも、新しい竹となるタケノコをとるので、竹林間伐と



看板



かんし89

年 月	スナ
2011年3月	0
2012年3月	5
2013年3月	50
2014年3月	35
2015年3月	75
2016年3月	145
2017年3月	206
2018年3月	34

97512



なります。春のタケノコをいただきながら、竹林の手入れになるというのは一石二鳥です。タケノコ掘りをして、タケノコの天ぷらを食べて竹林めぐみをいただきます。

6月には竹林間伐をおこないました。100本以上の竹を間伐しています。竹のこぎりで、竹を切りやすい高さで切り倒します。倒した竹は、先を持って運んでいきます。間伐した竹は、枝のないところと、枝がついているところに分けて積み重ねていきます。

竹林間伐を終えて、竹をつかって竹とんぼを作りました。講師は、彩の国どこでも竹とんぼクラブのみなさんです。

「平成竹とんぼ」といって、ナイフを使わないでつくります。できあがった竹とんぼをみんなで飛ばして遊びました。

○6月16日は斜面林自然観察会です。

横山さんから、網の使いかたを教わってスタートしました。

途中、学校の駐車場を歩いて行くとジャコウアゲハが飛んでいました。ひらひらと優雅に飛んでいます。

ちょうど、卵を産みつけにきていたのです。駐車場に、エコクラブでジャコウアゲハの食草のウマノスズクサという植物を植えておきました。毎年、ここでジャコウアゲハが斜面林に飛び立っていきます。

斜面林でたくさんの虫を見つけました。ハートマークがかわいい、エサキモンキツノカメムシです。貴重な、ヤマトタマムシも見つけました。最後にみんなでとった虫の自慢をして、虫たちは逃がしてあげます。この日だけでも33種類の虫を見つかることができました。これが記録です。

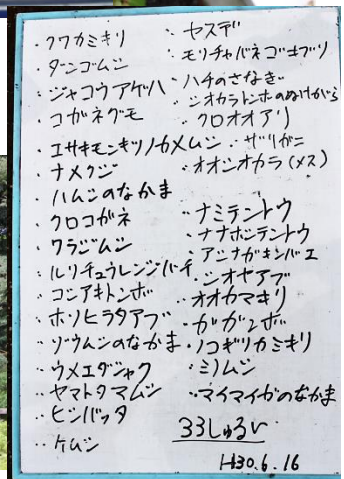
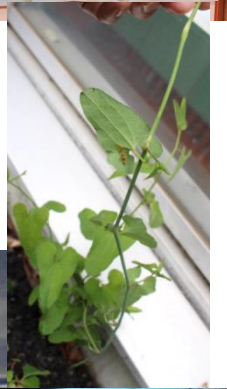
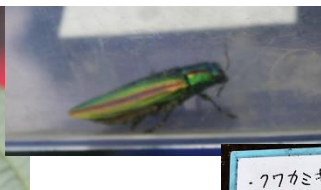
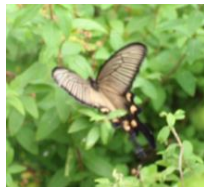
この斜面林にはたくさんの生き物がすんでいます。

○10月にも竹林間伐を行いました。

大人たちが竹を切っている間、ぼくたちは水路の手入れをすることにしました。

井戸のまわりに、たくさんのアメリカセンダングサが生えていて、ぼうぼうになっています。アメリカセンダングサをぬいて、水路をきれいにしました。3月にはここでアカガエルがまた卵をうみます。

ここは公園のへりにあるトンボ池です。わき水があふれていたのが、公園課の許可をもらってアスファルトをはがして、小さな「わき水池」にしました。ここにも毎年、アカガエルが卵を産んでいます。ヤゴもたくさん育っています。見沼からうつして植えた、サンカクイがしげりすぎているので、少し刈り取ることにしました。わたしたちが床屋さんです。



ちょっと…とら刈りかな…という気がしますが、きれいになりました。わき水があふれているのが見えます。

手入れを終えたら、切った竹を使って、もの作り名人の井原さんに教わりながら、竹のものづくりです。太いもうそう竹をのこぎりで切るのは一苦勞です。竹の花びん、水さし、竹皿などつくりました。



竹林間伐をした後の竹林には、少し光がさしこみ、風が通って竹林全体がとても気持ちよさそうです。


昔の里山のように、人が手を入れないと竹林はそのままでは荒れてしまいます。竹林だけでなく、水路も池も斜面林全体が、人が少し手を入れてあげるだけで、豊になります。



これからも林や水路での活動や調査を楽しみながら、林と林の生き物を育てていってあげたいです。

### 5. 在家小エコクラブ

わたしたちは在家小エコクラブです。活動は4つあります。

 1つ目はビオトープの手入れです。




学校に生き物のすみかを作りました。この水辺ランドには、トンボのヤゴやメダカ、ドジョウがいます。



今回は、枯れ葉の下にウシガエルがいました。このカエルは、口に入るものはみんな食べてしまうので、水辺ランドの生き物がみんな食べられてしまうところでした。これはめずらしいタヌキモだそうです。とつぜん花が開きました。食中植物だそうです。

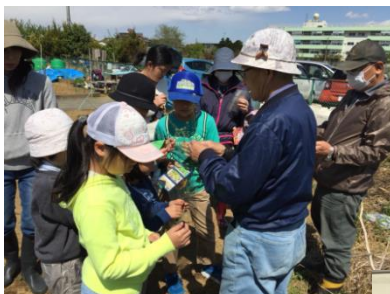


 2つ目の活動は、畑の活動です。  
・川口植物の会の西川先生をお呼びして畑の草しらべをしました。

・ジャガイモ掘りをしました。その場でゆでて食べました。



・畑では、なるべく種から育てます。こんな小さな種から大きなカブやダイコンになるのでびっくりします。



・カレーパーティー




・取れたニンジンやナスを入れます。今回は4種類のカレー、キムチ、みそトマト鍋でした。



・サツマイモもほって、焼いもをして食べました。

つるも巻いてリースにしました。  
こんな大きなリースを作った子  
もいます。

 3つ目は自然を楽しむ活動



・アイの生葉ぞめです。  
自然の色をいただきます。  
しぼりぞめにしました。




・ニードル人形

ヒツジを呼んで、毛刈りを見ました。  
ヒツジの毛を使って、針でチクチクして  
人形を作りました。



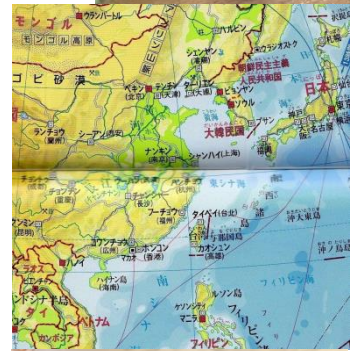
ウサギ、トトロ、イチゴ、フクロウなど、じょうずにできました。

 4つ目は、「外国の子どもとつながろう」です。

その一つに、「ラオスの子どもに文具を送ろう」  
をしています。

ラオスは飛行機で7時間くらいのところ  
です。お坊さんがたくさんいる国です。

とても貧しくになるので、ノートや教科書も買  
えません。そこで、えんぴ  
つやボールペンおりがみな  
どを集めて、神山先生、増  
塩先生に持って行ってもら  
っています。



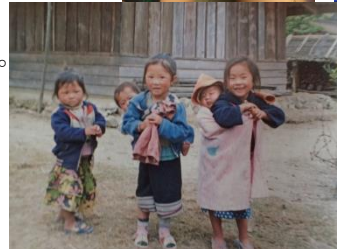
本もほとんど売っていないそうなので、集めて  
（日本の絵本にラオスをはったもの）  
ラオス語になおして送ります。なわとびも買って持って行きました。なわとびも、草のつるを使っているそう  
です。モン族の女の子たちは、刺しゅうをします。



お昼休みに、食事もしないで  
ミサンガを作っていました。  
帰ってから、村で、観光客に  
売るためです。  
ラオスの子どもたち  
の自己紹介カードです。



神山先生たちは、ラオスの子どもが大好きです。  
貧しくても明るく生きているからだそうです。





## 環境活動の発表について思ったこと（アンケートから）

- ・緊張したけど楽しかったです。次回は7回目となるので、よりよい発表をできるようにがんばります。（中3）
- ・いろいろ教えてもらえてうれしかったです。（小4）
- ・いろんなエコがあるんだなと思った。（小4）
- ・他のエコクラブではこんな活動をしているんだなと思いました。（小6）
- ・発表で、みんなこんなに知らないところで、ちゃんとみんなのためにエコをやっていたなんて知りませんでした。（小3）
- ・自分のやれることを考えてその考えを発表できました。また、自分のできることを実行できました(募金)。（小4）
- ・みんな「環境を守ろう！」という気持ちが強くてすばらしかったです。また、私も環境を守ることをもっとしたいと思いました。（小4）
- ・「三つのともに」が分かりました。一つ目は「地域とともに」で、二つ目は「ともに生きる」で、三つ目は「自然とともに」ということが分かりました。（小4）
- ・発表がじょうずでした。（小1）
- ・電気をこまめに消そうと思いました。（小1）
- ・オランウータンのことを守りたいから募金をしたいです。（小1）
- ・どの学校もとても楽しそうなことをしているし、他の国のことも考えているエコクラブもあっていいなと思いました。（小6）
- ・知らないことや見たことない物がたくさんあってすごいと思いました。（小3）
- ・改めて環境を大切にしようと思った。自分でできる範囲でいいから、環境にとってやさしいことをしようと思いました。家族でも心がけたいです。（小3）
- ・わたしは「ジプシーの森」の話をきいたことが1番心に残りました。理由は、ボルネオオランウータンがボルネオ島からきて62年も生きたことです。「すごい」と思いました。（小3）
- ・牛乳パックを回収してどうやって利用するのか気になりました。おねえさんの発表がじょうずだった。（小1）



## ワークショップ体験（感想から）

☆ ワークショップでたのしかったこと、おもしろかったこと ☆

### ① 校内の植物のふしぎ

- ・県の木ケヤキの葉には、木としての大きめの葉っぱと、種が風に乗って遠くまでとぶようについている小ぶりの葉っぱがありました。今まで見ていたときは、いろいろな葉っぱがあるんだろうなと思っていただけで、そのような工夫があることを初めて知りました。（中3）
- ・イチヨウがオスとメスにわかれていることが分かった。（小2）
- ・コセンダングサがふくにくっついてたのしかった。（小4）



講師 西川昭三先生より

この学校の自然の面白さをいくつか調べられたと思います。

イチョウ、ケヤキ、ヤマノイモ、コセンダングサ、セイトカアワダチソウ、センニンソウ、ヒガン、自然の豊富な学校ですね。

## ② むかしのくらしをさぐってみよう

- ・石うすや、やげんを使って、昔の人はいろいろな工夫をしているんだなと思いました。日光おなり道の説明をもらい、修学旅行の日光東照宮がたのしみになりました。(小6)
- ・昔のくらしの体験や、小学校郷土資料館で見た物で、昔の人のいろんな知恵で道具を作っていてすごいなと思いました。(小4)



講師 向井剛生先生より

石臼や薬研などを体験してもらう中で、昔の人の工夫に気づいてもらえて良かった。また地域の歴史にも触れてもらうことができて良かった。

## ③ 学校の植物で布をそめよう

- ・花も葉もそめられるのがおもしろかったです。(小3)



講師 神山裕則先生より

学校にある植物を使い、染物をしました。昔は、身近なものの命から色をいただいていたことを知らせたいです。人間の生活は、周りの植物や虫たち生物がなくては生きて行けません。自然を守ることは、私たちの命を守ることに繋がっています。命のつながりが、私たちの生活を豊かなものに変えてくれます。草木染が、その一つの入口になればと思っています。子どもたちは、採ってきた桑の葉で黄色を、どんぐりから茶色を染めて満足そうでした。

## ④ 「鳩ヶ谷の地形」から環境を知ろう

- ・わき水公園は、土地をかりているということがわかりました。たこの足は名前がおぼえやすくよかったです。(小2)

- ・ぼくは、あんまり発見はできなかったのですが、いろいろな虫や寺などを見てたのしかったです。(小3)
- ・ともだちができたこと。(小3)



講師 江口勝康先生より

桜町、鳩ヶ谷本町をぐるっとまわりました。わきみず公園や法性寺を中心に見てまわりましたが、参加者の方々はみなさん身近に残る自然に興味津々のようでした。

子どもたちは走りまわり、草を摘み、昆虫をつかまえたりしていました。つきそいの保護者の方(みなさん、引越組のよう)が全く身近の環境をご存知なくてビックリしました。

今回は、子どもたちよりも大人の方々のほうがいろいろな発見をされたようでした。たのしいひとときでした。古地図に残る地などを、古地図を手に持ちながら巡ってみたいと思いました。

## ⑤ エネルギーってなに？

- ・エネルギーについてくわしく知ることができました。人が食べていたエネルギーは、もとは宇宙のはじまりのエネルギーだったということが分かりました。(小4)
- ・電気でじしゃくが動いたのがおもしろかったです。(小4)
- ・エネルギーは、宇宙とも関わっていて、人間はエネルギーが必要であることがわかりました。手回し発電で運動エネルギーを電気エネルギーにしても、運動エネルギーになる実験もしました。(小5)
- ・電気の手回し実験がおもしろかったです。それに磁石を使った実験では、コイルを巻くときに少し手が痛くなったけど、そのあとの実験がおもしろかったです。(小6)



講師 萩原利夫先生より

「エネルギー」とは何かを説明して、運動エネルギーから電気エネルギーに変えて、電気エネルギーから運動エネルギーに変える装置をつくりました。少しむずかしい説明も真剣に聞いて、装置づくりも成功しました。

## ⑥ エコなクッキング

- ・自分で作ったものがたべられてよかったです。乾パンおつまみがおもしろかったです。(小1)
- ・トッピングをしたみそ汁もおいしいので、家でも作ってみたいなと思いました。(小3)
- ・ふつうの乾パンを食べるのが少しにがてだったけど、みそ汁にいれたり、パフェにしたり、トッピングをのせ

て食べたりしてとてもおいしくいただきました。(小3)

- ・みそ汁はいつも家で食べている味がしました。パフェは、フルーツやクッキーがおいしかったです。カンパンは、おこのみやきみたいでとてもおいしかったです。(小3)
- ・みそしるは、はじめて飲みきった。乾パンもうまい。おつまみがおいしかった。パフェが一番うまかった。(小3)



講師 牧野真知子先生より

「乾パンエコカフェ」開店です。シェフは1年生から6年生の18名。下準備が大変でした。板乾パンを様々な味付けてコースにしました。①『みそ汁リゾット』・カップにドライ味噌汁の素に砕いた乾パンを乗せ、湯を注ぐ。②『おつまみ』・乾パンに、好みのソース（ソース、ケチャップ、マヨネーズ）を塗り、トッピング（じゃこ、おかか、青のり）を乗せる。③『フルーツパフェ』・粉ミルクとシロップでソースを作り、乾パンを砕いたものを練って置き、缶詰めフルーツと交互に重ねて、缶詰シロップをかける。子ども達の反応は、乾パンの変身味に感激していた。

### ⑦ ペットボトルでけん玉を作って遊ぼう

- ・たのしくて2つも作りました。また参加したいです。(小1)
- ・作るのがたのしかったです。もっとけん玉がじょうずになりたいです。(小1)
- ・ペットボトルのけん玉をやって、むずかしかったことがあります。それは、キャップに糸をはさむことです。1回目はとれてしまったけれど、2回目、力をいれてテープでとめられたけどむずかしかったです。たのしかったことは、テープでかざりつけをしたことです。また家でもやったり作ったりしたいです。(小3)
- ・けん玉をつくれてたのしかったです。ひもとペットボトル（キャップ）テープだけで、けん玉をつくれることにびっくりしました。(小3)



講師 四條延子先生 宮元恒男先生より

低学年の子供が多かったので大変でしたが各自個性あふれる作品を作ってくれました。楽しかったです。子どもたちも楽しくすごせたようでよかったです。一人、一つではたりず、二つ作った子もいました。お兄ちゃんの分も作った子がいました。

## ⑧ 段ボールコンポストを作ろう

・おもしろかったことは先生の会話。(小5)



講師 守谷裕之先生より

とてもなごやかな中で出来ました。子ども向けにつくったプレゼンもしっかりと答えてくれました。ダンちゃんをこれからやってみようという人がほとんどで、なかまが増えたと思い、充実した時間でありました。このような場でアピールできて、仲間をつくれたことに感謝しています。

## ⑨ 自然材料のエコ工作

- ・いろいろなものを組み合わせて、いろいろなものができたので、たのしかったです。(小3)
- ・作品が最後まで作れてよかったです。(小1)



講師 井原勲先生より

12人の参加者の7人が1年生。見本がないのでどうなるかと思いましたが、自然の木の実(松ボックリ、カラマツ、ムクロジ、クヌギ、シイ、クルミ、メタセコイヤ、ハンノキ、モミジ、バフー、サワラ、カボチャの種)などを、身近な材料、カマボコの板、竹、輪切りの板にホットボンドで取り付けて作品を作りました。

どれ一つ同じものがなく、それぞれ個性ある作品を作ってくれました。身の回りには、いろんな材料がある事に気付いてこれからもものづくりに取り組んでくれればと思います。





「生きている化石」と言われるイチヨウの木の下で、その不思議について話す西川昭三さん。川口市立鳩ヶ谷小学校（岩川博和さん撮影）



小学生など子どもたちが環境について学ぶ「子ども環境フォーラム」が川口市立鳩ヶ谷小学校で開

## 秋の校庭 自然を学ぶ

かされた。NPO川口市環境会議が解説。  
（浅羽理恵理事長）が主催し、2004年から毎年1度、市内の小中学校などで開催しており、今回で15回目。親子連れの市民約100人が参加した。

### 川口・鳩ヶ谷小で環境フォーラム

午前中は、安行小や在家小など7グループが日頃の活動を発表し、午後は工作や自然観察の9コースに分かれ、教室のほか、校庭や校外に出て、鳩ヶ谷の自然や地形について学んだ。  
「校内の植物の不思議」をテーマに校庭を歩いたグループでは元高校理科教諭の西川昭三さん（82）ら歓声が上がった。（岸鉄夫）

元小学校教師の神山裕則さん（65）が指導したグループは「学校の植物で布を染めよう」というテーマで、ふつとドンクリと呼ぶシラカシやクヌギの実を校庭で拾い、帽子を細かくつぶし、鍋で煮た。その汁で白い木綿を染めると鮮やかな茶色に染まった。クワの木の枝では明るい黄色に染まり、子どもたちから歓声が上がった。



今年も子ども環境フォーラム 2018 が総勢 190 名の参加で、無事終了しました。環境活動の発表とワークショップは、例年通り盛り上がり大盛況でした。

今年は例年と違う嬉しいことがありました。それは、会場をお借りした鳩ヶ谷小学校から 50 人以上の参加があったことです。児童集会で参加を呼び掛けさせていただきただけでなく、担任の先生方がお声かけしてくださったおかげです。本当にありがとうございました。また、鳩ヶ谷高校から 3 名のボランティア参加があり、ワークショップのアシスタントをしてくれました。とても力強かったです。

今回参加された保護者から、貴重なご意見をいただきました。一部を紹介します。

- ・初めて参加しました。子どもたちが環境のことをたくさん学んだり、考えていることに感動しました。私たち大人が壊している環境であることに気付かせていただきました。今からできることをしていきたいと思います。
- ・午後から子どもと参加しました。各団体の皆さんの取り組みに感動しました。来年は別の学校で開催だと思いますが、午前の発表から参加したいです。ありがとうございました。
- ・久しぶりの参加でしたが、環境活動報告は、どの団体も自校で出来る取り組みのヒントがあり、参考になりました。午後のワークショップはどちらも魅力的で全部に参加したいくらいでした。

今回で、川口市内 9 地域を全て回って開催できました。一区切りついたので、今後どのようなフォーラムにするのかきちんと総括して、更に発展するように次へつなげていきたいと思っています。今回ご協力いただきました講師の先生方をはじめ全ての方々に、心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

認定 NPO 法人川口市民環境会議



## 子ども環境フォーラム 2018 報告書

発行：2019年1月  
認定 NPO 法人川口市民環境会議  
<http://www.ne.jp/asahi/eco/ecolife>